



# NEWS LETTER

No.28  
2021

## 第2次山形大学男女共同参画基本計画に基づき、令和3年度以降の支援制度を見直し、「多様な性に関するガイドライン」を策定しました。

令和2年4月に第2次山形大学男女共同参画基本計画を施行しました。第2次基本計画は令和2年度から10年間を計画期間とし、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、基本方針及び具体的施策が定められました。女性教員比率や女性管理職比率についてはこれまで以上に高い目標を設定し、「無意識のバイアス」や性的指向・性自認等への配慮なども明記されています。初年度にあたり、男女共同参画推進委員会を3回開催し、各キャンパスが年度計画を作成して取組を進めています。コロナ禍の中でしたが、ほぼすべての事業や支援制度を計画通りに行い、「無意識のバイアス」セルフチェックの導入や「多様な性に関するガイドライン」策定など、初年度の計画を実行することができました。

さらに、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）の支援事業が令和2年度末に終了することに伴い、第2次基本計画に基づいて支援制度を充実させるため、令和3年度以降の支援制度について検討しました。その結果、研究支援員制度、学会参加時の育児・介護支援制度、各種保育利用料補助制度の見直しを行い、1月末に各キャンパスに通知しました。

支援制度についてのお問合せは、男女共同参画推進室までお願いします。詳細はHPでご確認ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/> (HPをリニューアルしましたので、ぜひご覧ください。)

### 令和3年度以降の支援制度一覧 (下線の制度は見直しを行った制度です。)

#### (1) 研究支援

##### ◆研究支援員制度 (見直し)

- ※対象となる者を本学規程に合わせて整理。
- ※支援期間を半年単位から1年単位、週6時間までを限度に変更。
- ※事務手続きの一部をキャンパスに移管。
- ※予算額の増。

##### ◆学会参加時の育児・介護支援制度 (見直し)

- ※対象となる者を本学規程に合わせて整理。
- ※育児支援に加えて、介護支援を追加。
- ※予算額の増。

##### ◆女性研究者へのノートパソコン貸出(継続・テレワーク制度と連携)

##### ◆SDGs×COI若手・女性研究者交流会(継続)

#### (2) 就労支援

##### ◆小白川キャンパス保育所、医学部保育所・病児保育室、農学部の連携保育所(継続)

##### ◆各種保育利用料補助制度 (見直し)

- ※対象となる者を本学規程に合わせて整理。
- ※各種保育に関する支援制度をまとめ、対象を常勤の教職員に拡大。
- ※予算額の増。

#### (3) 相談

##### ◆相談窓口(「多様な性に関するガイドライン」を含む)

(相談員制度は廃止し、男女共同参画推進室で随時受け付け)

#### (4) 次世代育成

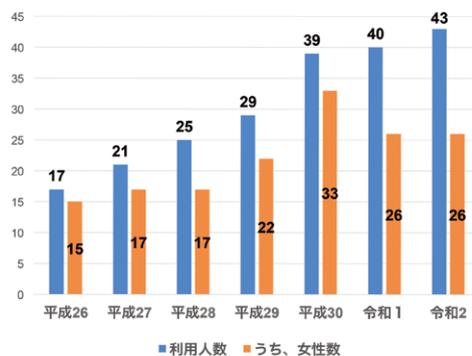
##### ◆女性研究者裾野拡大セミナー(継続)

##### ◆女性大学院生ネットワーク(継続)

#### (5) その他

##### ◆ワーク・ライフ・バランス懇談会(継続)

研究支援員制度採択者数の年次変化



\*ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ関連事業は令和2年度末に終了します。

\*研究支援員制度について

「研究支援員制度採択者数の年次変化」のグラフの採択者数は、前期・後期の採択者の延べ人数です。

採択期間は令和3年度より1年間に変更し、採択者(新任者を除く)は前年度2月末まで決定します。

# 「山形大学における多様な性に関するガイドライン」を策定しました。

令和3年2月

第2次山形大学男女共同参画基本計画(具体的施策4)には、性的指向・性自認等にかかわらずに活躍できる大学を目指すことが掲げられています。そのため、第1回男女共同参画推進委員会(書面会議)において、ワーキンググループを設置し、LGBT等対応ガイドラインを策定することが承認されました。

6月19日、推進室長より教職員6名(学内有識者や担当職員など)と学生3名にワーキンググループ委員(座長は中澤未美子 准教授)を委嘱しました。ワーキンググループでは、他大学の参考例や9月に実施した全教職員・学生アンケートなどを踏まえて、WG会議を5回開催してガイドライン(案)を作成し、ガイドラインの名称を「山形大学における多様な性に関するガイドライン」とすることが決まりました。その後、第2回及び第3回男女共同参画推進委員会での検討を経て、令和3年2月にガイドラインが策定されました。

なお、文部科学省が平成28年4月に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応などの実施について(教職員向け)」を公表し、令和2年6月のパワハラ防止法(改正労働施策総合推進法)では性的指向・性自認等を理由とするハラスメント防止が義務付けられたこと等も考慮しました。早期の対応が求められていると判断し、年度内の策定に至りました。しかし、ガイドラインで示した内容は現時点での対応状況ですので、これからも改訂の努力を継続していくことを明記しています。

ガイドラインの全文は、男女共同参画推進室HPでご覧ください。年度内にパンフレットとリーフレットを作成し、教職員・学生に配布してまいります。

ガイドラインの内容は以下のとおりです。

〈はじめに〉

I 「多様な性」を尊重する大学であるために

(1) 基本的な用語 (2) カミングアウトとアウトティング (3) ハラスメントの防止

II 本学の姿勢と現段階での具体的対応

(1) 啓発・研修 (2) 氏名・性別情報 (3) 授業 (4) 健康診断 (5) 就職活動、教育実習・介護等体験・インターンシップ等  
(6) 留学の対応 (7) 施設 (8) 相談窓口

III 学生、教職員、附属学校への対応

〈おわりに〉

〈巻末資料〉 ・誰でも使用することが可能なトイレ・学内の相談窓口の一覧

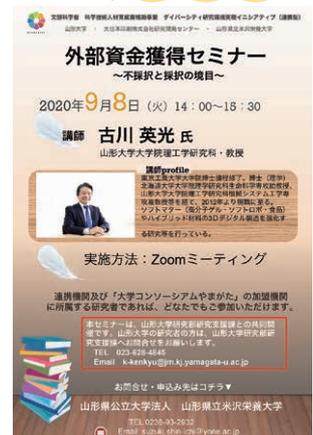
## ダイバーシティ事業の紹介

9月8日(火)

### ●外部資金獲得セミナーを開催しました。

外部資金獲得セミナー(米沢栄養大学が担当)は6年目となりますが、今年度は研究部研究支援課とのジョイントセミナーとして開催しました。オンラインで開催し、「大学コンソーシアムやまがた」にも公開したため、本学を含め6大学・高等専門学校から138名の参加がありました。

講師には、古川英光 学術研究院教授(大学院理工学研究科)をお招きしました。講義では、ご自身の科学研究費の初めての申請や、基盤Bへの申請時の採択・不採択の研究計画調書と比較しながら、具体的に説明いただきました。参加者からは、「実際に提出された申請書類を見せていただき勉強になった」、「審査員目線の計画調書の書き方などとてもためになった」などの感想をいただきました。



外部資金獲得セミナー  
～不採択と採択の境目～  
2020年9月8日(火) 14:00-16:30  
講師 古川英光氏  
山形大学大学院理工学研究科・教授  
Zoomミーティング  
お問い合わせ・申込み先はコチラ▼  
山形県立大学法人 山形県立米沢栄養大学  
TEL 0235-33-2932  
FAX 0235-33-2933  
E-mail k-achya@sm.kj.yamagata-u.ac.jp

セミナーのチラシ

### ●英語論文セミナーを開催しました。

新型コロナウイルス感染防止に充分配慮したうえで、小白川キャンパス法人本部第1会議室を会場とし開催し、各キャンパスのテレビ会議室と大日本印刷(株)研究開発センターに配信しました。

講師には、後藤薫 学術研究院教授(医学系研究科)をお迎えし、英語論文を書くことの意義と書き方についてご指導いただきました。講義では、科学論文の興味深い歴史の紹介とともに、論文作成過程において自らの思考を「記録、言語化、図式化」することの重要性についてお話いただき、先人の論文を数多く読むことが重要であることなどを、わかりやすく解説いただきました。39名の参加があり、参加者から「英語論文の書き方だけでなく、その哲学の歴史も大変興味深かった」、「セミナーに参加して貴重な体験になった」などの感想が寄せられました。

10月9日(金)



後藤氏の講義

# ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型) 3機関合同シンポジウムを開催しました。

～6年間の事業成果報告と今後の継続性について～

11月10日(火)

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関は、平成27年度にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に採択され、「有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに事業に取り組んできました。

事業前半の3年間で環境整備を整え、サービスデザインプロジェクトにより研究力を向上させて、事業の目標を達成しているという中間評価を得ました。事業後半では、山形大学が誇る有機エレクトロニクスを技術基盤とする山形大学COIと連携を強化し、学内の幅広い分野の女性研究者が未来の生活創造に参画する取組に発展させてきました。さらに、大学コンソーシアム山形にダイバーシティ推進ネットワーク会議を設置し、全国ダイバーシティネットワーク組織の東北ブロック幹事大学として南東北ネットワークの構築に取り組み、事業の波及の面でも目標を超える成果がありました。

今年度は最終年度でしたので、令和2年11月10日に6年間の事業成果報告のための3機関合同シンポジウムをCOIと共催して開催しました。新型コロナウイルス感染防止のため、会場の米沢キャンパス11号館の未来ホールには関係者のみが参加し、県外関係者や一般の方にはオンラインで参加いただきました。(関係者41名、一般11名、合計52名参加)

講演は、「女性研究者の現状と事業終了後に期待すること」と題して、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術プログラム推進部プログラム主管 山村康子氏よりオンラインでお話いただきました。山村様には6年間にわたりご指導いただきました。講演では、女性研究者の活躍促進を図る事業や現状について説明いただき、事業終了後に期待することとして、ダイバーシティ推進体制の維持・発展、女性上位職や女性マネジメント層の育成についてご助言いただきました。事業終了にあたり、これからもダイバーシティ&インクルージョンを促進していくことの重要性について、参加者一同が再確認する機会となりました。

また、COI研究機構の大場特任教授と男女共同参画推進室の井上准教授より、COI連携の取組と6年間の事業成果について報告が行われました。(事業報告の詳細は、「令和2年度山形大学報告書」に記載しましたのでご覧ください。)質疑応答では、学内外の皆様と成果を共有するとともに、外部評価委員や参加者から高い評価をいただいたところです。同シンポジウムのⅡ部では、昨年度に引き続き、COI若手・女性研究者交流会を開催し、COIの原田助教の進行により5名の研究者がオンラインで交流しました。

本学は、第2次山形大学男女共同基本計画に基づき、COI連携と地域とのネットワークを活かして、今後もダイバーシティ研究環境の推進に継続して取り組めます。



会場の質疑応答の様子

## COI連携とネットワークによるダイバーシティ研究環境の実現



事業の継続性

## I部 事業の成果報告

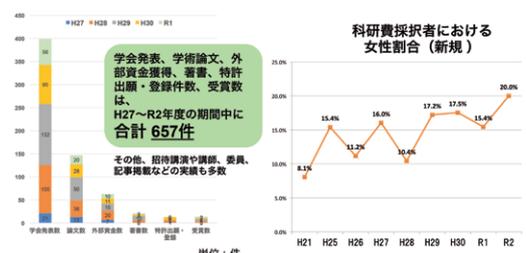
- (1)開会の挨拶 山形大学 理事・副学長 男女共同参画推進室長 小島浩孝
- (2)学長の挨拶 山形大学 学長 玉手英利
- (3)講演 「女性研究者の現状と事業終了後に期待すること」  
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術プログラム推進部  
プログラム主管 山村康子氏
- (4)報告1  
「山形大学COI事業報告～地域と連携した未来社会の創造」  
山形大学COI研究機構 特任教授 大場好弘
- (5)報告2  
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の事業報告」  
山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター 井上栄子
- (6)閉会の挨拶 山形県立米沢栄養大学 学長 阿部宏慈氏

- Ⅱ部 「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」  
山形大学COI若手連携 助教 原田知親

## 山形大学 女性教員の在職比率の推移



## 各種制度利用者の研究成果について



**黒谷 玲子 先生**

学術研究院(大学院理工学研究科) 准教授



私は、生命科学系の基礎研究者ですが、縁あって横浜市立大学で「新規有機磁性体を利用したドラッグデリバリーシステムの開発」に参画しました。このテーマとの出会いが、私を本学工学部へ導いてくれたのでしょ

う。私は、2010年に工学部バイオ化学工学科のテニュアトラックプログラム助教として採用されました。テニュアトラックは、優秀な若手育成のためのプログラムですので、当時30歳代後半であった私は、採用してもらえてラッキーでした。当時、工学部には、数名の女性教員しかおらず、理系専門職の専任の先生は、3名程度だったと記憶しています。おそらく、大学は“男女共同参画”に力を入れ始めたところで、このポジションも現在の女性限定枠に近いものだったのだらうと思います。

2014年にテニュアとなり、あっという間に7年が過ぎました。この間、本学は男女共同参画推進室を軸として真剣に男女共同参画に力を入れ、国のプログラムにも積極的に応募してい

**「ダイバーシティ事業に参加して」**

ます。その一つに、山形大学、米沢栄養大学、DNPとの「ダイバーシティ研究環境実現イニシアチブ(連携型)」共同プロジェクトがあり、私は2016年から参画しました。企業との共同研究にあまり縁がない私にとって、このプロジェクトは、多くの経験と学びを与えてくれた素晴らしい出会いとなりました。特に、『サービスデザイン』という手法を学び、教育・研究活動にも多に活用できています。参加した指導学生の活躍も素晴らしく、学生の力とセンスのすばらしさに気づかされました。2019年には、私の研究室の女子学生が中心となって、工学部で女性研究者裾野拡大セミナーを開催しました。この時も『サービスデザイン』を意識して、高校生の悩みや夢などを抽出して具体化していきました。参加した女性高校生が本学工学部を受験したいと言ってくれた時は、本当にうれしかったです。さらに、「令和2年度女子中高生理系進路選択支援事業」にも参画し、出前講義や出前実習の準備をして、学生と一緒に出番を待っています。

しかし、新型コロナウイルスの出現で、出前講義や実習の実施は難しくなり、研究環境も変わりました。私の研究には、細胞や動物を用いた実験が不可欠で、研究室への入室が

制限されると、研究がストップしてしまいます。自粛期間中は、学生には、TOEICの勉強をしたり、データをまとめたり、できることはたくさんあるから、頑張りましょうと励まします。でも、本当は私も頑張れない時もあります。そんな時は、これまで一緒に頑張ってきた人たちが応援してくれる人たちを思い出し、感謝し、頑張ろうと思ひなおします。

“男女共同参画”とは、ダイバーシティを理解し、実践し、当たり前になっていくための初めの一歩です。ダイバーシティが当たり前になるのは難しいかもしれませんが、100年後の世界は変わっていて、“男女共同参画”も“ダイバーシティ”も死語になっているといいですね!



ラボ風景

**令和2年度後半の事業について**

- 8月 2日 農学部裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ?～現役理系学生の話聞いてみよう」
- 8月26日 「大学コンソーシアムやまがた」第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議
- 9月 8日 外部資金獲得セミナー(研究支援課共催、オンライン)
- 10月 9日 英語論文の書き方セミナー(小白川キャンパス、TV会議)
- 11月 4日 小白川キャンパス主催「男女共同参画推進研修会」(オンライン)
- 11月10日 3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告」(COI共催、オンライン)  
SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～
- 11月10日 女子中高生理系進路選択支援事業「ヤマガタ夢☆未来Girlsプロジェクト」実施状況調査
- 11月13日 第2回男女共同参画推進委員会(書面会議)
- 11月24日 ハラスメント防止セミナーの開催(米沢キャンパス未来ホール・オンライン)
- 11月27日 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー(フレックス大学院共催)
- 12月 1日 理学部裾野拡大セミナー「理学部で何ができるのか?～女子高校生のための山大理学部案内～(高校1年生向け)」「理学部の研究室を覗いてみよう!(高校2年生向け)」
- 12月 4日 鶴岡キャンパス「学長・学部長と教職員とのワークライフバランス懇談会 in 農学部」
- 12月11日 男女共同参画推進室の移転(法人本部棟1階へ)
- 12月14日 全国ダイバーシティネットワーク認定証交付式(オンライン)、県内8機関に交付
- 12月23日 小白川キャンパスFD研修会「学長・学部長と教職員等とのワークライフバランス研修会」
- 1月26日 第3回男女共同参画推進委員会(小白川キャンパス、各キャンパスTV会議)
- 3月末 ニュースレター(第28号)、令和2年度男女共同参画報告書の発行



全国ネットワークの認定証

編集後記/活動記録を見ると「オンライン」が目立ち、推進室と米沢分室の移転もありました。コロナ禍の中、第2次基本計画が施行され、6年間にわたるダイバーシティ事業が終了を迎え、大きい節目の年でした。来年度からも米沢分室は継続し、支援制度も充実していくことになりました。新たなステージにバトンをつなぎたいと思います。(2021年2月)



**山形大学男女共同参画推進室**

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12  
TEL 023-628-4937/4938/4939  
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/